

## KIITO NEWS & TOPICS

### ついに開催!! 「ちびっこうべ 2014」



#### CREATIVE WORKSHOP ちびっこうべ 2014

→ 2014年10月12日(日)、13日(月祝)、18日(土)、19日(日) 12:30~17:00  
(子どものまち展示期間:10/15(水)~17(金)、21(火)~26(日) 11:00~19:00)

### ポスト経済成長時代の行方を、水俣から語る



熊本・水俣市久木野地域にて環境教育や食育、村おこしの実践に取り組む「愛林館」。その沢畠亨館長を招き、ローカルな場所でいかに行動するか、環境保全のための「山里の再デザイン」などについてお話しいただきます。地域とともに生きる専門家はいわば町医者。ことは水俣だけの課題ではなく、都市の創造的縮小を考える上でも示唆に富んだ時間となるはず。

#### 未来のかけらラボ vol.5 トークセッション

#### 風土・循環・自立～水俣川の上流社会から～

→ 日時: 2014年10月29日(水)19:30 ~ 21:00  
参加費: 500円(1ドリンク付き)、要申込、定員50名(先着順)  
講師: 沢畠 亨(愛林館 館長)

### COVER STORY



撮影場所: KIITO ホール

今回の表紙は「ちびっこうべ 2014」のメイン会場となる KIITO ホールから海側に向かって撮影。「KIITO ホールはかつて生糸検査の始点、そして終点となった総荷検査室でした。体育馆を想わせる板貼りの大空間で、生糸の木箱が梱包を解かれ、取り出された生糸は計量後に館内各所へ運ばれ、検査後ここから港へ送り出されたんですよ」(ひょうごヘリテージ機構会員・中尾嘉孝さん)。

### KIITOの住人と ⑥ 405号室 Spike 吉国 あゆみさん



レンタルスペース302を利用して、バッグブランド「TUTUMU」の秋の新作バッグ展示会を開催されていたSpikeの吉国さん。「MADE IN JAPAN TAKARAMONO」と入ったロゴが示すように、仕事にも子育てにもちょうど良さそうなサイズ感と、丁寧な作りが嬉しいバッグばかり。会議室利用の多い302が、すてきなショールームに変貌していて、思わず取材を申し込んでしまいました。勉強になります!

### KIITO: KIITO NEWSLETTER VOL.007 by DESIGN AND CREATIVE CENTER KOBE

2014年9月発行 発行: デザイン・クリエイティブセンター神戸

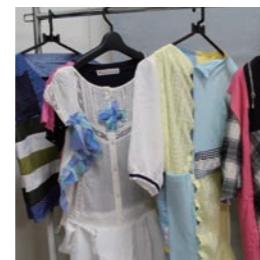
編集: 竹内厚[Re:S] / アートディレクション・デザイン: 寄藤文平+北谷彩夏[文平銀座]

写真: 林口哲也(p.1 ~ 3)、伊東かおり(p.2 西尾ワークショップ)、森本奈津美(p.4 ちびっこうべ)

### CONTACT

〒651-0082 神戸市中央区小野浜町1-4 TEL: 078-325-2235 FAX: 078-325-2230 E-mail: info@kiito.jp URL: http://kiito.jp/

### もっと西尾美也さんのことを知りたい!



ファッションと、それらをきっかけに起こるコミュニケーションに注目してアートプロジェクトを行ってきた西尾さん。「ちびっこうべ2014」では、市民が持ち寄った古着を利用し、子どものまちを彩る工房を作ります。その工房を間近に見られる会場にて、これまでの活動や KIITOでのプロジェクトについて、作家本人からお話しいただきます。

#### KIITOアーティスト・イン・レジデンス 2014

#### 西尾美也アーティスト・トーク

#### 「子どものまちでつくる衣服ーちびっこテラープロジェクト」

→ 日時: 2014年10月16日(木) 19:00 ~ 21:00

参加費: 無料、要申込、定員50名(先着順)

### 神戸ほどパンの食べ歩きにぴったりの街はない



KIITOのゼミから生まれた、パンの食べ歩きイベント「神戸PANPO」が昨年に続き開催されます。期間中は、神戸市中央区内の協力店舗が、PANPOオリジナル紙袋で一口サイズのパンを販売。今年は協力店舗が37店に増え楽しみも倍増! 詳しくは、市内各所で配布する「KOBEパンのまち散歩MAP」にて。

#### 神戸 PANPO

→ 日時: 2014年11月1日(土) ~ 30日(日)

主催: 「KOBEパンのまち散歩」実行委員会

共催: デザイン・クリエイティブセンター神戸

URL: <http://www.city.kobe.lg.jp/pan/>

### ACCESS



阪神神戸三宮駅、阪急神戸三宮駅、JR三ノ宮駅よりフラワーロードを南へ徒歩20分、国道2号線を越えた神戸税関東向かい。

神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分  
ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分  
※駐車場はございませんので、公共交通機関をご利用ください。

【キイト】デザイン・クリエイティブセンター神戸 刊行誌 KIITO NEWSLETTER VOL.007



### 楢橋 修 with 久仁子、弥菜

建築家

株式会社ティーハウス建築設計事務所

神戸大学准教授

1968年富山県生まれ。2002年ティーハウス建築設計事務所設立。2003年から2009年9月まで、東北工業大学工学部建築学科講師。2009年10月より神戸大学准教授。2009年、日本建築学会賞(教育)共同受賞。主な作品に、新潟県十日町市・清津川プレスセンター「きよつ」(2009年)、「三宮BOS」アートワーク(2011年)、東日本大震災復興支援「失われた街」模型復元プロジェクト(2011年)などがある。久仁子さんは株式会社ティーハウス建築設計事務所の代表を務める。

<http://www.teehouse.com/>

### 西尾 美也 with 咲子、美間

美術家

1982年奈良県生まれ。2011年東京藝術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。文化庁新進芸術家海外研修制度2年派遣研修員(ケニア共和国ナイロビ)等を経て、2015年奈良県立大学地域創造学部専任教員に就任予定。ファッションブランドFORM ON WORDSを主宰。また、西尾工作所ナイロビ支部やアラカワ・アフリカ実行委員会を結成し、アフリカと日本をつなぐアートプロジェクトを企画・運営している。咲子さんは京都芸術センターでアートコーディネーターを務める。

<http://yoshinarinishio.net/>

## 建築家 橋橋修

OSAMU TSUKIHASHI × YOSHINARI NISHIO

## 美術家 西尾美也

Q7

前号に続き、お二人に7つの共通の質問に答えてもらいました。お二人の2015年も注目です。

- Q1. 神戸で起った印象的な出来事  
Q2. 好きな食べ物 Q3. 行ってみたい場所 Q4. ついついやってしまうクセ Q5. 最近気になる人 or もののこと Q6. KIITOでやってみたいこと Q7. 2015年の予定

A.



橋橋修さんのこたえ

- A1. 神戸に来た2010年、娘が誕生しました  
A2. 海鮮バーべキュー  
A3. ジブラルタル  
A4. 時間をあまり見積もる  
A5. 藤子不二雄  
A6. 給食!  
A7. 家族と共に新しい魔法の開発

A.



西尾美也さんのこたえ

- A1. パスタが喉に詰まった  
A2. 中華料理  
A3. 奈良南部  
A4. 本を意味なくバラバラ漫画のようにめくる  
A5. 絵本と子ども向けTV番組  
A6. ちびっこテーラーによるフリマ  
A7. 新しい働き方、暮らし方の実践



橋橋さんが取り組む「失われた街」模型復元プロジェクト展から、被災前の陸前高田（人と防災未来センター、2014.9）。東日本大震災により失われた街や村を1/500の模型で復元し、その環境で紡がれてきた記憶の保存・継承を目指す。  
[写真提供：「失われた街」模型復元プロジェクト]



橋橋 まだ買つただけのものと同じではありません。なにごとも分業だし、だいたいは既成品を買って終わり、ですから。だからこそ、作るプロセスから参加してもらうというのは僕もやりたいことなんですけど、そういう意識は最初から持てましたか。

橋橋 やっぱり最初は、自分が作りたいものを考えますよね。だけど、世の中には自分が作るよりもたくさんある建築がすでにあって、僕はそれを見て、どこから発想をしたのかとか、どうしてここにトップライトを開けようと思ったのかとか、細かなプロセス、段取りを想像するようになりました。建築家は最初からこんなにすばらしい建物になることを想像してただろうか、とかね。図面に書いたものが、実際の土地に立ち上がって屋根がつながるということ自体、やっぱり奇跡だなって思います。それがしていくプロセスと、使い続けていくプロセス、その一連の流れを作ることの面白さがあるなと。

西尾 僕は、アフリカのケニアに住んでいましたが、そこではプロがいないくて、みんなが素人みたいな感じでモノが作られていました。それだと途中で変更することも容易だし、たとえ壊れたとしても自分たちで直せるので、ものすごいクリエイティビティと可能性を感じました。マーケットで見た光景も印象的で、世界中から集まってきた古着を彼らは自分たちで値段をつけて、屋外で展示して売ってるんですね。それが街を彩る景色になってるし、隣ではダメな服をテーラー



橋橋 『ちびっここうべ』の会議をたまたま目撃したんですけど、これだけの人数の大人が関わってるんやつて驚きました。すごいことが起こりそうだなと。

橋橋 子どもって、プロも素人もないじゃないですか。代わりにモチベーションだけがある。そのみなぎるモチベーションを存分に開花させる場所として『ちびっここうべ』があつて、子どもたちが自分はこう思つたとか、みんなに話して「そうだそだ！」となつたことが、実際に実現するんです。この経験が大人になった時に、突拍子もないことでも結実する可能性を信じて進めていけるつてことにつながるんじゃないかな。

西尾 それは、ほんとに僕が学校教育に感じていた問題意識を解決するような仕組みですね。興味をもつた方向に突っ走つてもいいという道が、学校というものはなかつたですから。

橋橋 そうですね。でも、突っ走った先で算数や国語が必要になつてくることがわかると、そこでまた学校の授業に対するモチベーションも生まれると思う。

西尾 なるほど、確かに。ちなみに、橋橋さんは自身の子育てもワークショップ的なことを取り入れたりしますか？

橋橋 それはなかなかねえ：僕の場合、子どもは研究対象かな。きれいごとのようになりますけど、子どもから教わっている方が大きいですね。

西尾 僕も悩むところがあつて、自分の表現ではルールを逸脱することをよしとしますけど、たとえば、ピンクのものを息子に渡すと、「これは女の子の色や」って言い出すようになつてきて、しようもないなあと（笑）。ルールは学ばせつつ、僕はそれと矛盾したことというか、大人として全然違うことを見せていくのも重要だらうなと思つてます。

西尾 体験が伴うと、より強く記憶に残るそうですかね。僕なんか、被災地で自分がやつてる模型のプロジェクト展に娘を連れて行って、でも、何も教えませんよ。きっと家の模型がたくさんあることくらいしかわかつてないと思うけど、そうやって見ておけば、そこから何を見出すかは本人次第なので。

橋橋 ファッションもどんどん採りいれてきたいですよ。『ちびっここうべ』では、表現の対象となるものはすべて自分で作るべきだと考えてます。

(構成…竹内厚)

橋橋修さんと西尾美也さんはこの日が初対面。にもかかわらず、ふた家族と一緒に撮影をするという、めったにない経験をしていただきました。偶然にも、それぞれのお子さんの年齢は4歳。父親としての素顔を垣間見せながらの撮影となりました。おふたりは、10月にKIIITOで行われる『ちびっここうべ2014』でも大きな役割を果たします。建築、ファッション、子育て、街づくり…まるで異なる

世界のようですが、通じるものも確かにありました。橋橋修さんはどういうきっかけから建築家になりましたか。空間的な何か原体験があつたのか、建物を取り巻く仕組みへの違和感なんでしょうか。

橋橋 基本的には工作好きなんだと思います。子ども頃、雑誌の付録もありましたけど、そうじゃなくて、自分でお菓子の箱を切つてロボットを作つて、合体できるようにしてみたりして。立体造形と仕組みの部分とどちらも興味がありました。建築家になつてもそこはあまり変わっていない（笑）。お施主さんの住宅を建てるにしても、ずっとキャッチボールをしながら積み上げていって、最終的にはお施主さんが建築家と同じくらいの判断ができるようになるまでつきあつてもうかると、すごくいい家になるんですね。そうした過程をちゃんと踏んだものって愛着が生まれるというか、ただ買っただけのものと同じではない。

西尾 そのお答えは、僕も共感できますね。服も建築も、小さい頃に自分でそれをつくる機会つてあまりに多いです。なにごとも分業だし、だいたいは既成品を買つて終わり、ですから。だからこそ、作るプロセスから参加してもらうというのは僕もやりたいことなんですけど、そういう意識は最初から持てましたか。

橋橋 やっぱり最初は、自分が作りたいものを考えますよね。だけど、世の中には自分が作るよりもたくさんある建築がすでにあって、僕はそれを見て、どこから発想をしたのかとか、どうしてここにトップライトを開けようと思ったのかとか、細かなプロセス、段取りを想像するようになりました。建築家は最初からこんなにすばらしい建物になることを想像してただろうか、とかね。図面に書いたものが、実際の土地に立ち上がって屋根がつながるということ自体、やっぱり奇跡だなって思います。それがしていくプロセスと、使い続けていくプロセス、その一連の流れを作ることの面白さがあるなと。

西尾 その場で直している。そうやって、自分たちで新しい関係性、空間を生み出していることが新鮮でした。

橋橋 僕もアフリカには集落調査で行つたことがありました。いろんなものを見てきましたけど、全然異なる文化圏だったとしても、空間や土地の使い方、それと人、社会とをどうつきあわせるかみたいなことに、共通する作法のようなものはあるなと思いました。

西尾 そうですよね。僕もファッショントレーナーとして服を作つてではなくて、そういう部分から学んで創作をやつていきたいんです。

橋橋 服の風景つてことで言えば、ポルトガルの里斯ボンに「アルファマ」というアラブ人街だったところがあつて、そこの細い路地を路面電車が駆け抜けているだけ、たくさんの洗濯物が道を渡してあるんですよ。それは華やぎがありましたね。

西尾 洗濯物を使ったインスタレーションはいつかやりたいんですよ！ 洗濯物つて普通は隠しちゃうけど…。

橋橋 生活の気配が見えるってのがいいんですよね。

がその場で直している。そうやって、自分たちで新しい関係性、空間を生み出していることが新鮮でした。

橋橋 僕もアフリカには集落調査で行つたことがあります。いろんなものを見てきましたけど、全然異なる文化圏だったとしても、空間や土地の使い方、それと人、社会とをどうつきあわせるかみたいなことに、共通する作法のようなものはあるなと思いました。

西尾 そうですよね。僕もファッショントレーナーとして服を作つてではなくて、そういう部分から学んで創作をやつていきたいんです。

西尾 「ちびっここうべ」の会議をたまたま目撃したんですけど、これだけの人数の大人が関わってるんやつて驚きました。すごいことが起こりそうだなと。

橋橋 子どもって、プロも素人もないじゃないですか。代わりにモチベーションだけがある。そのみなぎるモチベーションを存分に開花させる場所として『ちびっここうべ』があつて、子どもたちが自分はこう思つたとか、みんなに話して「そうだそだ！」となつたことが、かでも絶対に観られないような景観になるんですね。

西尾 「ちびっここうべ」の会議をたまたま目撃したんですけど、これだけの人数の大人が関わってるんやつて驚きました。すごいことが起こりそうだなと。

橋橋 子どもって、プロも素人もないじゃないですか。代わりにモチベーションだけがある。そのみなぎるモチベーションを存分に開花させる場所として『ちびっここうべ』があつて、子どもたちが自分はこう思つたとか、みんなに話して「そうだそだ！」となつたことが、かでも絶対に観られないような景観になるんですね。



西尾さんの「ちびっこテーラー」ワークショップ風景(8/30)。10/16には、西尾さんのこれまでの活動や、KIITOでのプロジェクトについて紹介するアーティストトーク(詳細は裏面)、10/18にはファッションショーを開催(大人も少しだけぞけます)。

